いっしん

4月号

第479号

令和７年(2025年)

教えとは
人を教える
ことよりも
我(われ)を教える
ものとこそ知れ

甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師御歌

発行：金光教加治木教会　〒899-5213 鹿児島県姶良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝　TEL/FAX　0995-62-2895
Mアドレス　hittobe.konkaji@gmail.com　(HP)http://kajikikon.konjiki.jp/《HPの「いっしん」はカラーで見れます》

立教166年／小倉教会布教140年／甘木親教会布教121年／加治木教会布教74年

写真：大重為映氏「嘉例川駅の桜」

嘉例川駅（かれいがわえき）は、鹿児島県霧島市隼人町嘉例川にあるJR肥薩線の駅。駅舎は県内最古で明治三十六年に営業を開始し、国の登録有形文化財に登録されている。教徒の瀬尾郁雄氏経営の「仙寿の里温泉」のある新川渓谷温泉郷にほど近い。

春季霊祭仕えられる

三月二十日の春分の日、ご神前・ご霊前に満開となった桃の花がお供えされ、調べてみれば旧暦二月二十一日で間もなく「桃の節句」（上巳の節句・じょうしのせっく）を迎える季節で、加治木教会では春季霊祭が仕えられました。

春季霊祭は、加治木教会の布教の御用の上に、ご尽力・ご苦労を下さり、生涯を布教の御用に捧げられた先生方をはじめ、加治木教会にご神縁のある信奉者の皆さんとそのご先祖様の霊様方に対し、お礼お偲びお称え申し上げるみ祭りです。

ご祭典では、まずご神前で霊祭詞が奏上され、ご霊前転座後に、霊様方が幽冥（かくりよ）で今日まで天地の親神様にお世話になられて来られたことを御礼申し上げると共に、これからも霊様方が神様のおかげを蒙られ幸せでご安心されますようにという意味合いが奏上されました。

（次ページへつづく）

春季霊祭…P1～2　『私の頂く安武松太郎師』…P3～4　加治木教会報徳祭…P4
典楽講習会…P5　『しおん』より…P6～P7　教会行事…P８

ご霊前では、加治木教会の霊舎にお祀りされてあるご霊神様方(教徒)のお名前を読み上げ、さらに信徒はじめ縁(ゆかり)あるご霊神様方(信徒)のお名前を読み上げられました。

霊神祭詞の奏上だけでも数百柱を数え、奏上に二十分ほどもかかります。ご霊神様方の読み上げの儀式は「お呼び出し」とも言われ、幽冥(かくりよ)のご霊神様方が、ご祭典にお出ましになられ、家族や子孫・ご縁のある人達の参拝があっていると、ご安心されお喜びになられるそうです。

肉眼ではわからないこととして、春秋の霊祭の参拝をおろそかにする人がありますが、けっして良いことではありません。

霊様にお喜びいただきご安心いただいて、ご霊徳を積むということをおろそかにしないように努めたいものであります。

ご神前・ご霊前にも
花桃が供えられました

教徒のみなさんから順に玉串の奉奠がなされました

スミレも公園や道ばたで
春の暖かさを迎え咲きだしました

『私のいただく安武松太郎師』

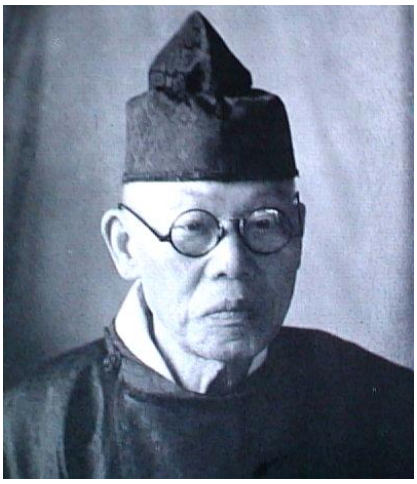
（矢野政美著　昭和五十六年十二月発行）

2、道の御用に　お取り立ていただく

恩師は、特に人材の育成を大きな願いとされて、道の御用に立つ多数の教師をお育てになりました。

私にも、将来道の御用に立つ者にならせていただくようにと、かねがね母にお伝えになっておられたと聞かせてもらいました。

私自身も、母が三十三才の大患のおかげを頂いた後に授かった子であると、絶えず聞かせて頂いておりましたので、お道の御用に立たせていただくことは、有難いことと思わせていただいておりました。しかし、望み多き青春の時代でもあるので、私自身、いろいろな希望を胸に抱いておりました。



安武松太郎師

ちょうど、その頃、金光教学院を終えられ恩師の手となり足となって、御用の第一線にお立ちになっておられました若先生（二代文雄師）から再三再四「道の御用に立たせていただきなさい」と勧められましたが、種々のことを考えまして、容易に決心がつきかねておりました。

そこで恩師に、私ども夫婦の進むべき道についてお伺いにまいりましたのは、昭和二十二年三月のことでした。その意向を申し上げ、応接間で堅くなって夫婦でお待ちしておりますと、廊下にスリッパの音が聞こえ、スッと襖が開いて、恩師がお入りになりいろいろとみ教えを頂きました。

その中で、「矢野さん、この世の中には職業という職業はたくさんある。お道の御用は決して職業ではないが、仮に職業ということになれば、この世にこれほど尊い職業はまたとあろうかと思う。それは、例えば商売であれば、売る方は少しでも高く売りたいと思い、そのとおり高く売れれば喜ぶ。ところが、それを買った方は高買いしたと悔やむであろう。そこで、一方が喜べば一方が悔やむ、片方が助かれば片方が助からないことがたくさんある。それに比べてお道の御用は人の助かることを願い続けるのである。人が助かるということは、神様が一番お喜びになり、また、助かった人が喜び、自分自身もそれによって立ち行かせて下さる。即ち、神様と人と自分と三位一体となって助かるのである。あなたは、お母さんが三十三才の折、九死一生のおかげを頂いてその後に生まれたのである。今日まで矢野の家におかげを蒙って来た事実を、そのまま人に伝えるだけでも、結構御用に使っていただけるから決心をしなさい」と、強い口調で仰せになりました。

私ども夫婦は、この恩師のお言葉を頂いて、足取りも軽く家へ帰りました。

さらに、神様のみ計りとでも言いましょうか、御用に立たせていただくことを躊躇しておりました家内が、当時甘木で開演中の木下サーカスを見て、「少女が高いところで綱渡りや、いろいろな演技をするのも稽古に稽古を重ねてのことであろう。人間一心にならせていただけば、私のような者でも神様は御用にお使い下さるに違いない」と決心してくれました。

　私どもが、お道の御用に立たせていただきますことを、誰よりも一番喜んでくれましたのは母でありました。

　いよいよ準備を整えまして、昭和二十二年四月三日、親教会の一修行生として入所させていただきました。

（つづく）

　来年、令和八年は加治木教会布教七十五年のお年柄であります。五月には記念大祭をお仕えさせていただくことに致しております。その記念事業として『わたしのいただく安武松太郎師』（矢野政美著）を加除訂正し、若い人たちにも読みやすい言葉づかいに改め、再版させていただくことを考え準備を進めております。

加治木教会記念祭に向け

バンド隊の育成にとりくもう！

バンド隊の練習は、昨年少し取り組ませていただきましたが、現在は休止中です。

　この先、バンド隊の活動をつづけていくにも、楽器が十分にありません。

　そのため、楽器が不要になった施設や団体、もしくは個人、さらにはその入手ルートなど、情報をおよせください。また、気をつけておいてください。

感詠（教会長）

半年で地球半分寒と暑を
　入れ替えなせるちから尊し

豊後より手弁当にて御用にと
　典楽指導　意気揚々と

卒寿越え泊まり込みにて御用にと
　努め続ける日田の信徒（まめびと）

芽吹きかけ寒の戻りに伸びやめて
　おりはせぬかとプランターを見る

あしあと

加治木教会行事記録

３月

1（土）●報徳月例祭　10時半
3（月）甘木親教会参拝（感話発表 岡山氏）
5（土）～6（日）教誨師会研修会（ご本部）
8（土）地鎮祭（木村家）
9（日）清掃御用　10時
10（月）●月例祭10時半
13（木）矢野クラ刀自立日　御祈念10時
15（土）～16（日）典楽講習会鹿児島教会
19（水）清掃御用　10時
20（祝・木）●春季霊祭　10時半
22（土）●月例祭・共励会13時半
29（土）～30（日）●御本部天地金乃神御大祭　参拝
31（月）清掃御用　10時

典楽講習会
開催される

三月十五日(土)・十六日(日)鹿児島教会において「典楽講習会」が開催されました。

鹿児島県下の各教会から十三名の参加者があり、遠く大分県・熊本県より六名の指導員の皆さんがおみえになられ講習会が開催されました。加治木教会からも、二名が参加させていただきました。

例年指導に当たられる典楽会南九州支部の皆さんは、大分県の日田教会・耶馬渓教会・大分港教会・青山教会、熊本県の蘇陽教会・岱明教会の、教師・信徒の皆さん方でした。

両日にわたり、終始和やかな雰囲気の中で、箏（こと）・篳篥（ひちりき）・笙（しょう）・竜笛（りゅうてき）の稽古・指導が進められました。

日田教会の信徒の指導員（典楽会支部長）の赤尾武男さんは、九十二才となられますが、若い指導員からも慕われ、お元気に穏やかに正確に指導の御用に当たられてあります。

赤尾武男氏
（日田教会）

赤尾さんは、東北大震災が発生した翌日も、お嬢さん(石巻教会長夫人)と連絡が取れない中にも、典楽指導の御用にと鹿児島へ来られ、御用に対するシッカリとした責任感を示されてありました。

今回も〈健康のおかげを頂いている間は御用に！〉というお気持ちでおみえになられました。

石巻教会のお孫さんは、復興支援に訪ねた方たちとの奇しきご縁をいただかれ、のちにご霊地の金光学園高等学校の野球部でご活躍ということでありました。お祖父様の深いご信心とお祈りの賜物(たまもの)でもあることが伺われます。

鹿児島地方教会連合会でも加治木教会でも、信心の向上に併せて典楽の普及と技術の向上が願われます。

特に加治木教会では来年に、布教七十五年記念大祭が控えており、典楽奏者の育成も願われるところです。

平島義雄氏の妻
肺結核が全快する

※呼子教会発行『しおん』より転載。『しおん』は、山根友次郎師（呼子教会）が安武松太郎師の御取次のご内容を筆記され、後年製本化された遺教集。

昭和十八年、平島義雄さんの妻五十八才が、八月頃、風邪を引いたのが、その風邪が二十日あまりも抜けなかった。どうしても治らんので九州大学病院に診察に行くと、医者が、それではレントゲンを撮ってみようと言われるので撮ってみると、はっきり肺結核になっていることが分かる。「こうなったら、思い切って養生するように」と申し渡された。

それから、帰りに娘婿が大学病院前で薬剤師をしているので、そこに立ち寄り病気のことを話すと、飛び切り上等の薬を十日分調剤してくれたのでそれを持って帰って、信心はもちろんですが、薬に栄養にと気をつけて養生しますが、少しも良くならない。ある日奥さんが参拝した時、親先生から、

「現在、あなたは五十八才なれば、五十八年のお礼を申し上げねばならない」

と教えられて、なるほど、信心は話を聞くだけが能ではない。わが心から練り出すがよいと言われている。み教えをいただいて、義雄さんは、〈これは自分が間違いであった。家内が自分の家に来て三十八年にもなるが、未だ一度も家内にはこのような苦労もなしにおかげを与えて下さった。子供まで恵まれ、一家を作らせて下さっているというお礼を申し上げたことはない。これは間違っている〉と思い、しんから改まられた。

平島只助先生

戦前に加治木布教に当たられた平島先生のお父様が平島義雄氏で、熱心に信心を進められ、ご子孫は今日も熱心に信心を続けられている。

それから、だんだん快方に向かい良くなったが、しかしまだ完全にすっきりしない。一日良かったと思うと二日悪い。一日良いかと思うと三日悪いというようにあったので、義雄さんは、これは当たり前の信心ではいかんと思い、奥さんを呼びよせ、「あなたも今度という今度は、よほど考えて神様におすがりせねばいかぬ。どうせ死ぬものなら、死ぬる覚悟で信心をしたら」と言うと、それから本人も、「覚悟をします」と言うから、「今覚悟しても、後でひるがえすようなことではできない。それでは、神様に嘘をつくようなことになるから、そのつもりでしっかり腹を決めなさい」と言い渡された。

すると、奥さんも非常にしっかりと覚悟を決められて、「もう、覚悟ができたから薬を飲む必要はない。栄養物もとらんでもよいはずだ。他の家族の者と同じ物をいただいておりさえすればよいから」と、決心された。本人がその気になったら、病気はずんずんと良くなり快方に向かい、たいへん良くなられた。

翌年の正月頃、奥さんの里が櫛木（平島家のある山家と秋月の中間の集落）であるので、久しく行っておらんから、是非行きたいと言われたが、あちらには神様がおられんので、あそこに行ったら病気が後戻りするかも知れんと言うので、義雄さんも一緒に行かれた。そして一夜泊まったら、翌日は秋月から甘木に参拝して、三日の青年会（現信奉者集会）に参って帰ろうと相談された。

その晩の奥さんの夢に、「大きなライオンの前を自分達が通っていると、非常に恐ろしかったが、そのライオンが眠っ

ておったので、目を醒まさぬようにどんなに苦労したか分からん」と話された。すると義雄さんが、「それは良かった。もしそのライオンが目を開けておったら、たいへんなことになっていた」と話しましたと言われた。

その日より、顎のところが、少し腫れている。多分それは、歯か目が腫れておるのであろうと思っていたら、三日の青年会がすんで帰ってみると、福岡の娘が帰って来ていたが、娘が顎のところを見てさわってみて、「これはこつこつしている。これはいかん、リンパ腺から腫れているのですよ。これは大学で手術しても治らん」と言う。

平島さんは、「神様が造って下さった身体だから、心配することはいらん」と言われていたが、やはりそのとおりに一週間ばかりで良くなった。娘さんは、胸から来た瘰癧（るいれき）だから良くならんと言っていたのに立派に良くなった。

また、途中で田の中に緋鯉がぴちぴちしている夢を二晩も続けて見た。これは神様が病気を良くなしてくださる神様のお知らせと、自信を持たせていただいた。またある時は、大きな蛇に足の四本生えた恐ろしい大蛇が一足、一足歩いている夢を見せていただいているのであったが、その夢のとおり胸のほうもおかげをいただいた。

※最初の方にある安武松太郎師の「現在、あなたは五十八才なれば、五十八年のお礼を申し上げねばならない」とのみ教えは「生まるる力も生きる力もない者が、生かされてきた間ご苦労くださってきた神様のご恩に報いる信心（一心）」という矢野クラ刀自にみ教えされた内容と同じ内容であります。安武松太郎師のご信心に貫き通されている「親神様のご恩に報いる」ことの大切さを説かれています。また、一心不乱に、よそ見もせぬようひた向きに神様に心を向け寄せて行くご信心のあり方が如実にあらわされています。

〈教会長〉

今年も

「チャレンジカード」に とりくもう！

少年少女会「チャレンジカード」は、5月から7月までの、信心の「取り組み表」です。

※大人は「信行取り組み表」に チャレンジしましょう！（7月頃）

ご霊神様のお立ち日

四　月

平島厳廼正明聡根彦之靈神（1日）昭和19年
前田重吉 之靈神（4日）大正5年
小坂カネチヨ 之靈神（5日）昭和43年
福元　節 之靈神（2日）昭和59年
中野　勇 之靈神（3日）平成11年
前田シナ 之靈神（4日）昭和20年
小坂カネチヨ 之靈神（5日）
前田ソエ 之靈神（6日）昭和39年
中村ミツエ春霞刀自之靈神（7日）令和3年
松田浅右衛門 之靈神（8日）昭和28年
安武孝子玉依姫 之靈神（9日）昭和50年
汰木美之助 之靈神（11日）昭和24年
瀬尾雅博 之靈神（12日）平成3年
市薗千賀子 之靈神（19日）平成13年
小坂ミツエ 之靈神（24日）平成25年
岡山トヨ 之靈神（27日）令和5年
中島武彦 之靈神（26日）昭和51年
三反　礫 之靈神（29日）昭和48年

ご先祖のご霊神様の、現世・幽冥（かくりよ）でのお働きあっての今日の私たちであります。
立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げましょう。教会では、十日の月例祭で、霊前で霊祭をお仕えし、玉串の 奉てんを準備しています。

四月十二日（土）～十三日（日）
甘木親教会
青年のつどい
集合　十二日　十七時
解散　十三日　十二時

四月二十五日（金）　ご祭典　午前十一時より
甘木親教会
天地金乃神御大祭　参拝

五月十八日（日）　午前十一時より
加治木教会
天地金乃神御大祭　奉仕
ご祭典後ご教話
講師　大口教会長
安武秀信先生

《御大祭》
四月十三日（日）11時　多良木教会
四月二十日（日）12時　大口教会
五月十一日（日）11時　人吉教会

教会行事

4月
1（火）●報徳月例祭　10時半
　併せて勧学祭
3（木）甘木親教会参拝日（参拝は未定）
5（土）中野重子刀自五十日祭（宅祭）
9（水）清掃御用　10時
10（木）●生神金光大神様月例祭　10時半
12（土）～13（日）甘木親教会青年の集い
13（日）多良木教会御大祭　11時
16（水）連合会執行部会　十時半～鹿児島教会
　引き続き（連）青少年育成企画会議
20（日）大口教会御大祭　12時
21（月）清掃御用　10時
22（火）●月例祭・共励会　13時半
24（木）甘木親教会壮年部会（教師）
25（金）甘木親教会御大祭
28（月）教誨師御用
29（祝火）若松教会130年記念大祭
30（水）清掃御用　10時

五月七日～十六日
御大祭奉迎　信行期間
ご祈念・研修～午前五時三十分
・午前十時

5月
1（木）●報徳月例祭10時半
3（土）甘木親教会参拝日（参拝は未定）
9（金）清掃御用　10時
10（土）●生神金光大神様月例祭　10時半
11（日）●人吉教会御大祭　11時
17（土）準備御用　10時
18（日）●加治木教会御大祭　11時
21（水）清掃御用　10時
22（木）●月例祭・共励会　13時半
25（日）新田原教会記念大祭　11時
27（火）～28（水）甘木親厚会教会巡拝
（甘木親先生・出社教師28日、加治木教会訪問）
31（土）清掃御用　10時
《未定行事》
少年少女会　野外調理

「改まりの願い」（加治木教会）
自己中心の信心から
　親神様の御立場に立った信心に、
親神様を使う信心から
　親神様にお喜びいただき
　　ご安心いただく信心に、
おかげを信じる信心から
　親神様・ご神慮を信じる信心に、
　　改まらせていただこう。
※『安武松太郎教話集　第十集』のご内容を参考にしてあらわしています。